

令和2年度 埼玉県校外教育協会委嘱

校外教育 研究紀要

<研究主題>

地域で受け継がれてきた体験活動を通して地元荒川を愛する生徒の育成



秩父市立荒川中学校

埼玉県秩父市荒川日野23

TEL 0494-54-1010

FAX 0494-54-1110

E-mail arakawachu@chichibu-stm.ed.jp



ぽてくまくん

1 はじめに

秩父市は埼玉県の北西部に位置し、面積は577.83平方キロメートル、埼玉県全体の約15%を占め、人口は約1万6千6百人である。秩父多摩甲斐国立公園など、自然に恵まれた環境の地域である。秩父市内の中心部を流れる荒川は、秩父湖などのダム湖を形成している。12月2、3日に行われる日本三大曳山祭りの一つで有名な「秩父夜祭り」がある。

本校は、昭和22年4月に開校された歴史と伝統のある学校である。全校生徒は107名、5学級（通常学級3，特別支援学級2）の小規模校である。平成27年4月に大滝中学校と統合し、県内でも通学区が最も広い学校になりました。四方を山に囲まれて、自然が豊かな環境である。また「そばの里」としても有名である。

2 研究の概要

(1) 研究テーマ

地域で受け継がれてきた体験活動を通して地元荒川を愛する生徒の育成

(2) テーマ設定の理由

地元の魅力を再認識し、将来の地域の担い手である人材を育成をしていくためにも「社会に開かれた教育課程」の実現が必要とされている。一方では、子どもたちへの教育は学校だけでは完結するものではない。地域住民など、様々な専門知識・能力を持った地域人材に関わることで、将来を生き抜く子どもたちに必要な知識・能力を育成することができる。目標を共有して、地域社会と学校が協働して子どもの教育に取り組むことが必要だからである。

(3) 研究のねらい

地域の方の指導者から伝統芸能である「神明社神楽」、「白久串人形」、食の伝道師の方から郷土食である「そば打ち」、学校ファームで農業指導者の方から農業を学び、交流することで、地域を愛する生徒、表現の育成と人間関係構築力の向上を図る。

(4) 研究計画

○今年度の予定

- | | |
|----|----------------------------------|
| 4月 | 総合的な学習の時間の年間活動計画の作成(全学年) |
| | 生徒の実態等を把握し、発表内容や練習計画を策定(全学年) |
| | 畑の耕起(1・2年) |
| 5月 | ジャガイモ、サツマイモの作付け(2，1年) |
| 6月 | 伝統芸能の練習(3年) (今年度は中止)、畑の除草(1，2年) |
| 7月 | ジャガイモの収穫及び給食材料で2回使用(2年) 畑の除草(1年) |
| 8月 | // 畑の除草(1年) |

- 9月 // 畑の除草（1年）
- 10月 伝統芸能発表会（3年）（今年度中止）、サツマイモの収穫（1年）
- 11月 ちちぶ荒川新そばまつり参加（希望者） 長瀬校外学習（2年）
- 12月 鳥獣対策講演会（今年度中止）
- 1月 そば打ち体験（1年）（予定）（今年度中止）
- 2月 活動のまとめ作成

○期待される成果

- ・地域への参加が積極的になり、多様な人間関係を良好に築く力がつく。
- ・地域の方との交流により、将来を生き抜く子供たちに必要な知識・能力を育成することができる。
- ・体験活動を通して生徒同士のコミュニケーション能力や表現力が育まれる。

3 具体的な取組

（1）農業指導者から学ぶ農業体験活動

例年、地元の方に畑をお借りし、地域の農業指導者の方のご指導の下、畑作りから収穫、調理まで行った。しかし、今年度はコロナウイルスの影響で、農作物も学年に1種類しか栽培できなかった。2年生は、1ヶ月ぐらいジャガイモの植え付けが遅れたが、無事に収穫し、給食調理場に持っていき、給食の献立の材料として使用した。本校生徒だけでなく、近隣の小学校にも食べていただいた。2年生はサツマイモの植え付けを分散登校時に、生徒を2つに分けて行った。毎日朝、放課後を利用しながら、教師の指示の下、生徒を少人数に分けて水やりを行ったり、除草を行ったりしながら、例年よりも形のよりサツマイモが収穫できた。



2年ジャガイモの収穫

1年サツマイモの収穫

（2）食の伝道師から郷土食である「そば打ち」体験活動（今年度中止）

荒川地域は「そばの里」として有名である。荒川地域で収穫したそば粉を使って、秋の収穫後に「そば打ち」体験活動を行った。地域の食の伝道師の方がおり、その方々のご指導の下、地域の施設をお借りして取り組んだ。



（3）地元の自然を感じながらの登山や林業体験を交えた林間学校

昨年度より2年生で林間学校が始まり、地元の山々や動植物等、自然を満喫しながら登山を行ったり、学区内にある大滝げんきプラザにて宿泊した。大滝地域は昔

から林業を営んでいるところがあり、林間学校の中に林業体験（間伐、薪割り、枝打ち）を組み込みながら、体験学習を行った。今年度はコロナウイルスの影響で、林間学校は中止になり、長瀬方面での登山や岩畳などを体験した。



- (4) 荒川地域の伝統芸能である「神明社神楽」、「白久串人形」の体験活動及び発表
今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、中止した。例年は、地域の伝統文化継承を目的として、6月より練習を始め、10月末に行われる文化祭当日の午後を利用し、伝統芸能発表会を実施した。地域の指導者の方々は指導にとっても熱心であるが、近年高齢化が進み、指導者の方々の人数確保が大変である。

(写真は昨年度の伝統芸能継承学習の様子)



白久串人形発表

三味線演奏

神明社神楽（受持之神）

笛

4 成果と課題

(1) 研究の成果

- ・コロナウイルスの影響もあったが、農業体験を1，2年生全員が体験でき、自分の手で収穫できたことの喜びが何よりも良かった。
- ・そば打ち体験はできませんでしたが、荒川地域は「そばの里」なので、各家庭で祖父母に教えてもらったり、実際にそばの店を回ったりしながら、作り方を勉強した生徒が何人かいた。

(2) 今後の課題

- ・大滝地域を中心として、昔から林業がさかんな地域で、2年生の林間学校での林業体験（間伐、薪作り、枝打ちなど）を例年しているが、今年度は林間学校が中止になりできなかつたので、来年度以降は体験学習させたい。
- ・荒川地域の伝統文化の継承が今年度はできなかつたので、3年生から2年生に継承ができず、来年度がやや心配である。来年度は早めに地域の指導者の方々に来てもらって打ち合わせを行い、生徒の前で講義してもらうことが大切である。
- ・農業体験やそば打ち体験の地域の指導者の方々が高齢化し、年々人材確保が厳しい。また、生徒数減少に伴い、改善をすることが必要不可欠である。